

宿泊約款

(適用範囲)

第1条

- 1 当館が宿泊客との間で終結する宿泊契約及びこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めない事項については、法令又は一般に確立された慣習によるものとします。
- 2 当館が、法令及び慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定にかかわらず、その特約が優先するものとします。

(宿泊契約の申込み)

第2条

- 1 当館に宿泊契約の申込みをしようとする者は、次の事項を当館に申し出ていただきます。
 - (1) 宿泊者名、性別、住所、電話番号、国籍及び職業
 - (2) 宿泊日及び到着予定時刻
 - (3) 宿泊料金（原則として別表第1の基本宿泊料による）
 - (4) その他当館が必要と認める条項
- 2 宿泊客が、宿泊中に事項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申し入れた場合、当館に予約がなかった場合のみ、その申し出がなされ当館が承諾し、宿泊料金を前払いいただいた時点で新たな宿泊契約の申込みがあったものとして処理します。

(宿泊契約の成立等)

第3条

- 1 宿泊契約は、当館が前条の申込みを承諾したときに成立するものとします。ただし、当館が承諾しなかったことを証明したときは、この限りではありません。
- 2 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間の基本宿泊料を限度として当館が定める申込金を、当館が指定する日までに、お支払いいただきます。
- 3 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第6条及び第18条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残額があれば、第12条の規定による料金の支払いの際に返還します。
- 4 第2項の申込金を同項の規定により当館が指定した日までにお支払いいただけない場合は、宿泊契約はその効力を失うものとします。ただし、申込金の支払期日を指定するに当たり、当館がその旨を宿泊客に告知した場合に限ります。

(申込金の支払を要しないこととする特約)

第4条

- 1 前条第2項の規定にかかわらず、当館は、契約の成立後同項の申込金の支払いを要しないこととする特約に応じることがあります。
- 2 宿泊契約の申込みを承諾するに当たり、当館が前条第2項の申込金の支払いを求めなかった場合及び当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取り扱います。

(宿泊契約終結の拒否)

第5条

- 1 当館は、次に掲げる場合において、宿泊契約の終結に応じないことがあります。
 - (1) 宿泊の申込みが、この約款によらないとき。
 - (2) 満室（員）により客室の余裕がないとき。
 - (3) 宿泊しようとする者が、宿泊に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき。

- (4) 宿泊しようとする者が、イからハに該当すると認められるとき
 - イ 暴力団員による不当な行為を防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団（以下「暴力団」という。）同条第2条第6号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）、暴力団準構成員又は暴力団関係者その他の反社会的勢力
 - ロ 暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき
 - ハ 法人でその役員のうちに暴力団員に該当する者があるもの
- (5) 宿泊しようとする者が、他の宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき。
- (6) 宿泊しようとする者が、伝染病者であると明らかに認められるとき。
- (7) 宿泊に関し暴力的要求行為が行なわれ、又は合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
- (8) 天災、施設の故障、その他やむを得ない事由により宿泊させることができないとき。
- (9) 過去に第7条1項の適用を受けた者であるとき。
- (10) 静岡県旅館業法施行条例5条の規定する場合に該当するとき。

（宿泊客の契約解除権）

第6条

- 1 宿泊客は、当館に申し出て、宿泊契約を解除することができます。
- 2 当館は、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部又は一部を解除した場合（第3条2項の規定により当館が申込金の支払期日を指定してその支払いを求めた場合であって、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときを除きます。）は別表第2項に掲げるところにより、違約金を申し受けます。ただし、当館が第4条第1項の特約に応じた場合にあっては、その特約に応じるに当たって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払義務について、当館が宿泊客に告知したときに限ります。
- 3 当館は、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の午後6時（あらかじめ到着予定時刻が明示されている場合は、その時刻を2時間経過した時刻）になっても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

（当館の契約解除権）

第7条

- 1 当館は、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除することがあります。
 - (1) 宿泊客が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、又は同行為をしたと認められるとき。
 - (2) 宿泊客が次のイからハに該当すると認められるとき。
 - イ 暴力団、暴力団員、暴力団準構成員又は暴力団関係者その他の反社会的勢力
 - ロ 暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき
 - ハ 法人でその役員のうちに暴力団員が該当する者があるもの
 - (3) 宿泊客が他の宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき。
 - (4) 宿泊客が伝染病者であると明らかに認められるとき。
 - (5) 宿泊に関し暴力的要求行為が行なわれ、又は合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
 - (6) 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させることができないとき。
 - (7) 静岡県旅館業法施行条例第5条の規定する場合に該当するとき。
 - (8) 寝室での寝たばこ、消防用設備等に対するいたづら、その他当館が定める利用規則の禁止事項（火災予防上必要なものに限る。）に従わないとき。
- 2 当館が前項の規定に基づいて宿泊契約を解除したときは、宿泊客がいまだ提供を受けていない宿泊サービス等の料金はいただきません。

（宿泊の登録）

第8条

- 1 宿泊客は、宿泊当日、当館のフロントにおいて、次の事項を登録していただきます。
 - (1) 宿泊客の氏名、年齢、性別、住所、電話番号及び職業
 - (2) 外国人にあっては、国籍、旅券番号、入国地及び入国年月日
 - (3) 出発日及び出発予定時刻
 - (4) その他当館が必要と認める事項

- 2 宿泊客が第 12 条の料金の支払いを、旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、あらかじめ、前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

(客室の使用時間)

第 9 条

- 1 宿泊客が当館の客室を使用できる時間は、午後 3 時から翌朝 11 時までとします。ただし、連続して宿泊する場合には、到着日及び出発日を除き、終日使用することができます。
- 2 当館は、前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室の使用に応じることがあります。この場合には次に掲げる追加料金を申し受けます。
 - (1) 宿泊の場合 13 時まで基本宿泊料金の 10 %
15 時まで基本宿泊料金の 30 %
18 時まで基本宿泊料金の 50 %
それ以降は基本宿泊料金の 100 %とします。
 - (2) 日帰りの場合 1 時間延長につきお一人様 1,080 円とします。

(利用規則の遵守)

第 10 条

宿泊客は、当館においては、当館が定めて施設内に掲示した利用規則に従っていただきます。

(営業時間)

第 11 条

- 1 当館の主な施設等の営業時間は次の通りとし、その他の施設等の詳しい時間は下記の通りです。
 - (1) 門限 午前 0 時～午前 5 時の時間は玄関を施錠させていただきます。
 - (2) 対応時間 イ フロント係 午前 8 時～午後 9 時
ロ 接待係 午前 7 時 30 分～午後 8 時 30 分
ハ 上記時間以外はナイトフロント係が対応いたします
 - (3) 飲食等サービス時間
朝食 午前 8 時～午前 9 時
夕食 午後 6 時～午後 8 時 30 分
 - (4) 付帯サービス施設時間
喫茶：午前 8 時～10 時 30 分 午後 15 時～18 時
書画展示室：午前 8 時～11 時 午後 15 時～20 時
- 2 前項の時間は、必要やむを得ない場合は臨時に変更することがあります。適当な方法をもってお知らせ致します。

(料金の支払い)

第 12 条

- 1 宿泊客が支払うべき宿泊料金等の内訳は、別表第 1 に掲げるところによります。
- 2 前項の宿泊料金等の支払いは、次に掲げる方法によるものとします。
 - (1) 当館による宿泊申込承諾後、当館指定日までに当館指定口座への銀行振り込みによる支払い
 - (2) 宿泊申込時にクレジットカード等これに代わり得る方法による支払い
 - (3) 宿泊客の到着の際又は当館が請求した時、フロントにて行なう通貨による支払い
- 3 当館が宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申し受けます。

(当館の責任)

第 13 条

- 1 当館は、宿泊契約及びこれに関連する契約の履行に当たり、又はそれらの不履行により宿泊客に損害を与えたときは、その損害を賠償します。ただし、それが当館の責めに帰すべき事由によるものでないときは、この限りではありません。
- 2 当館は、万一の火災等に対処するため、店舗総合保険及び施設賠償保険に加入しております。

(契約した客室の提供ができないときの取扱い)

第14条

- 1 当館は、宿泊客にヶ訳した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設を斡旋するものとします。
- 2 当館は、前項の規定にかかわらず他の宿泊施設の斡旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払い、その補償料は損害賠償額に充当します。ただし、客室が提供できないことについて、当館の責めに帰すべき事由がないときは、補償料を支払いません。

(寄託物等の取扱い)

第15条

- 1 当館では、宿泊客がフロントにお預けなつた物品又は現金並びに貴重品について、当館の故意又は過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが不可抗力である場合を除き、当館は、その損害を賠償します。ただし、現金及び貴重品については、当館がその種類及び価額の明告を求めた場合であつて、宿泊客がそれを行わなかつたときは、当館は当館の故意又は重大な過失がある場合を除き、30万円を限度としてその損害を賠償します。
- 2 宿泊客が当館内にお持ち込みになつた物品又は現金並びに貴重品であつてフロントにお預けにならなかつたものについて、当館の故意又は過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは、当館はその損害を賠償します。ただし、宿泊客からあらかじめ種類及び価額の明告のなかつたものについては、当館の故意又は重大な過失がある場合を除き、10万円を限度としてその損害を賠償します。

(宿泊客の手荷物又は携帯品の保管)

第16条

- 1 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立って当館に到着した場合、その到着前に当館に通知いただいたときであっても、責任をもって保管することができません。
- 2 宿泊客がチェックアウトしたのち、宿泊客の手荷物又は携帯品が当館に置き忘れられていた場合において、その所有者が判明したときは、当館は、当該所有者に連絡をするとともにその指示を求めるものとします。ただし、所有者の指示が内場合又は所有者が判明しないときは、発見日を含め7日間保管し、その後最寄りの警察署に届けます。
- 3 前項の場合における宿泊客の手荷物又は携帯品の保管についての施設の責任は、前条第2項の規定に準じるものとします。

(駐車の責任)

第17条

宿泊客が当館の駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当館は場所をお貸しするものであつて、車両の管理責任まで負うものではありません。ただし、駐車場の管理に当たり、当館の故意又は過失により損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

(宿泊客の責任)

第18条

宿泊客の故意又は過失により当館が損害を被つたときは、当該宿泊客は当館に対し、その損害を賠償していただきます。

(管轄裁判所)

第19条

当館は宿泊客との間で訴訟の必要が生じた際には、管轄裁判所を沼津地方裁判所とします。

別表第 1 宿泊料金等の内訳（第 2 条第 1 項及び第 2 条第 1 項関係）

		内 容
宿泊客が 支払うべき 総額	宿泊料金	①基本宿泊料金（室料+朝・夕食）②サービス料 10%
	追加料金	③追加飲食（朝・夕食以外の飲食料）及びその他の利用料金
	税金	④消費税 ⑤入湯税

《備考》

- 1 基本宿泊料は別に掲示する料金表によります。
- 2 子供料金は小学生以下に適用し、大人に準じる食事と寝具を提供したときは大人料金の 70 %、子供用食事と寝具を提供したときは大人料金の 50 %、寝具のみを提供したときは大人料金の 30 %をいただきます。寝具及び食事を提供しない幼児については、館内施設使用料として 1 名 3,000 円（税別）の実費を申し受けます。

別表第 2 違約金（第 6 条第 2 項関係）

	不 泊	当 日	前 日	3 日 前	5 日 前	6 日 前	7 日 前	14 日 前	15 日 前	30 日 前
14 名まで	100%	100%	50%	30%	20%	20%	10%			
15 ～ 30 名まで	100%	100%	50%	30%	30%	20%	10%			
31 ～ 60 名まで	100%	100%	80%	50%	30%	20%	20%	10%		
61 名以上	100%	100%	80%	50%	30%	30%	30%	15%	10%	10%

《注意》

- 1 %は、基本宿泊料に対する違約金の比率です。
- 2 契約日数が短縮した場合は、その短縮日数にかかわらず 1 日分（初日）の違約金を収受します。